



多方向同時型デモンストレーション 動画教材活用による反転授業の学習効果

岡田 朱民¹ 中島小乃美¹

1. 佛教大学保健医療技術学部看護学科

教育改善の目的・目標

- 基礎看護学のねらい
あらゆる健康レベルにある対象への看護実践の基盤となる基本技術や日常生活行動の援助技術，診療の援助技術の基本的知識・技術・態度の習得
⇒対象の状態をアセスメントして実践できる基礎的能力の習得
- 近年の技術習得の課題
学生の日常生活体験の乏しさや生活上の困難をイメージ化することの難しさに加え，COVID-19拡大の影響により看護学生の技術習得が困難な状況に陥る

多方向同時型デモンストレーション動画教材による
LMS（学習管理システム：Learning Management System）
を使用した反転授業による確実な看護援助技術の習得

目的

本動画教材を活用した反転授業を受けた学生の
学習効果を明らかにする

授業概要と教育改善の内容

1. 本看護学科における基礎看護学の位置づけと授業概要

- 1年次：看護学の基盤となる概念や理論，看護技術や医学的知識を学ぶ。
- 2年次：各看護専門領域の基礎的な看護実践能力を養う。
- 3年次：様々な人々の健康および生活課題を多角的に分析する力を養う。
- 4年次：看護活動を通して地域社会への貢献ができる看護実践能力を養う。

表1 2021年度本学科専攻科目の構成

1年生		2年生		3年生	4年生
看護学概論	生活行動援助技術論	看護実践過程論	診療援助技術論	成人看護急性期方法論Ⅱ	小児看護学実習
看護実践基盤技術論	成人看護学概論	成人看護慢性期方法論Ⅰ	成人看護急性期方法論Ⅰ	成人看護慢性期方法論	母性看護学実習
フィジカルアセスメント技術	基礎看護学実習Ⅰ	老年看護学概論	成人看護慢性期方法論Ⅱ	老年看護方法論Ⅱ	精神看護学実習
地域・在宅看護学概論		小児看護学概論	老年看護方法論Ⅰ	小児看護方法論Ⅱ	在宅看護学実習
		母性看護学概論	小児看護方法論Ⅰ	母性看護方法論Ⅱ	公衆衛生看護活動論
		精神看護学概論	母性看護方法論Ⅰ	精神看護方法論Ⅱ	公衆衛生看護実習Ⅰ
		在宅看護学概論	精神看護方法論Ⅰ	在宅看護方法論Ⅱ	公衆衛生看護実習Ⅱ
		基礎看護学実習Ⅱ	在宅看護方法論Ⅰ	成人看護学実習Ⅰ	看護研究Ⅰ・Ⅱ
		老年ともいき実習	公衆衛生看護学概論	公衆衛生看護方法論Ⅱ	
			公衆衛生看護方法論Ⅰ	公衆衛生看護展開論Ⅰ・Ⅱ	
				公衆衛生看護管理論	
				成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ	
				老年看護学実習	

赤字：本研究対象とした科目，青字：実習科目

研究対象とした科目

1年次後期：生活行動援助技術論

ねらい：日常生活行動に問題を持つ患者を援助するための基本的知識・技術・態度の習得

2年次後期：診療援助技術論

ねらい：健康上の問題をもつ対象の診療の援助技術の基本的知識・技術・態度の習得

表2 本研究対象とした2021年度授業概要

授業科目	日常生活行動援助技術論	診療援助技術論
授業形態	講義と演習	講義と演習
講義回数	30回（2コマ続き）	30回（2コマ続き）
単位数	60時間2単位	60時間2単位
学年と人数	1年/66名	2年/66名
開講時期	1年次後期	2年次後期
講義内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身体の清潔の援助 （全身清拭・洗髪・足浴・寝衣交換） ・ 栄養と食事の援助・口腔ケア ・ 排泄の援助 陰部、臀部の清潔 ・ アセスメントに基づいた 援助技術の実際 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 無菌操作、創傷処置、包帯法 ・ 導尿の援助、浣腸の援助 ・ 経管栄養法 ・ 吸引、吸入の援助 ・ 静脈血採取の方法 ・ 筋肉内注射の方法 ・ 静脈内注射の方法

2. 教育改善の内容

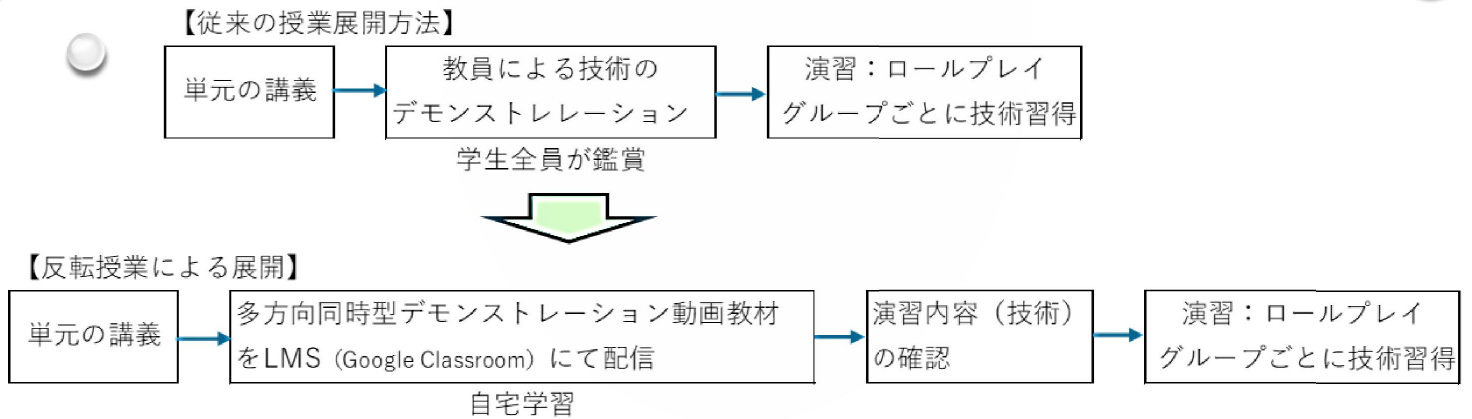


図3 本授業の展開方法

本動画内容を講義時に説明し，LMSを使用して1週間後の技術演習までの自己学習課題として配信。技術演習時に動画内容を主体的に学生同士のロールプレイングによって技術習得するよう指導。

多方向同時型デモンストレーション動画教材の一例

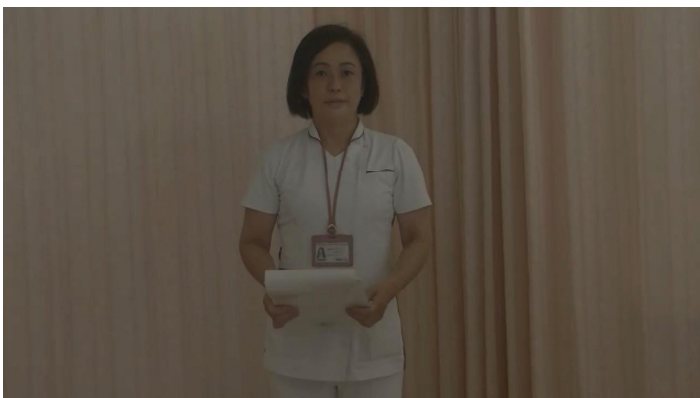


図1 洗髪の援助の方法

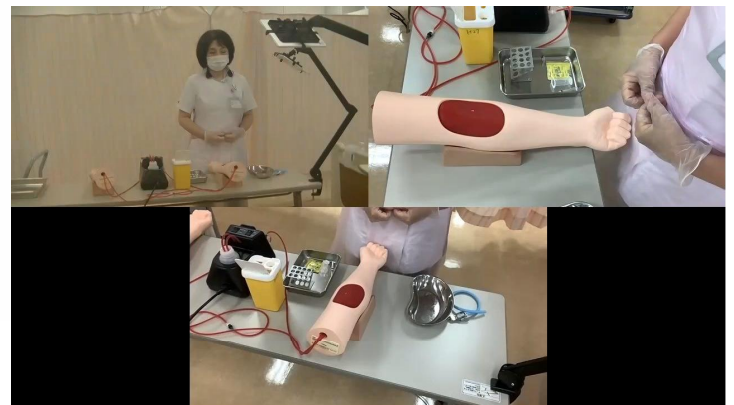


図2 静脈血採取の方法

教育実践による教育効果とその確認

1. 教育効果の確認方法

1) 対象 A大学看護学科 2021年度1年生66名、2年生の66名

2) 研究方法 自作質問紙調査

(1)調査日 2022年4月

(2)データ収集方法

成績確定後、新年度にそれぞれの学年に研究協力依頼を行った。

同意が得られた者がGoogle フォームを使用した質問紙にURLあるいはQRコードを読み取ってリンクできるようにし、調査期間を3日間設けて回答を依頼した。

4) 分析方法

1年生と2年生に分けてSPSS統計ソフトを使用して分析を行った。データはそれぞれ単純集計を行い、基礎看護学の授業への取り組み姿勢と動画教材が役に立った度合いについては、Spearmanの順位相関を実施した。

6) 倫理的配慮 所属大学「人を対象とする研究」倫理審査委員会承認(2021-33-B)

2. 教育効果の結果

本研究への同意を得、質問紙の回答が得られたのは1年生47名、2年生46名であった。

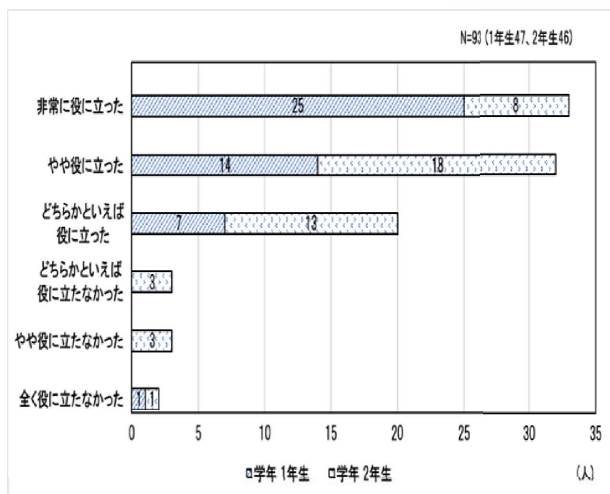


図4 動画教材が役に立った度合い

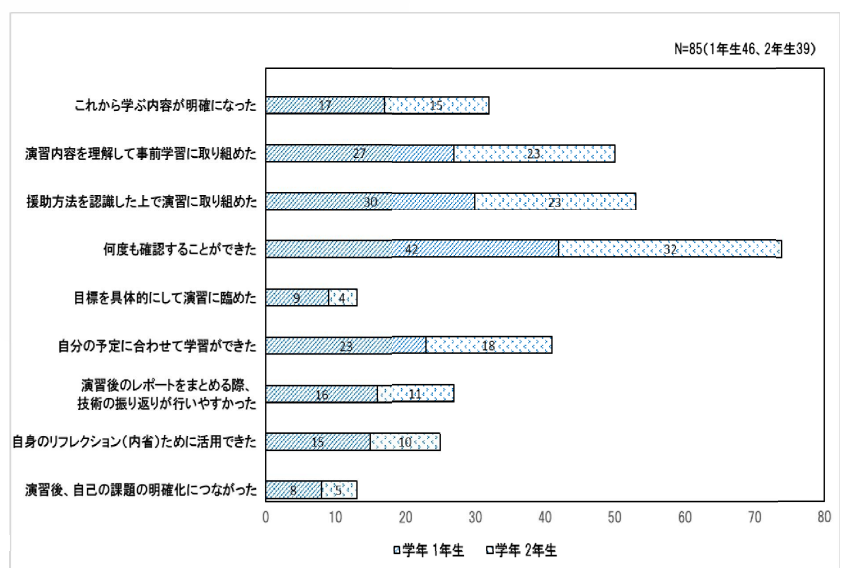


図5 動画教材が役に立った理由

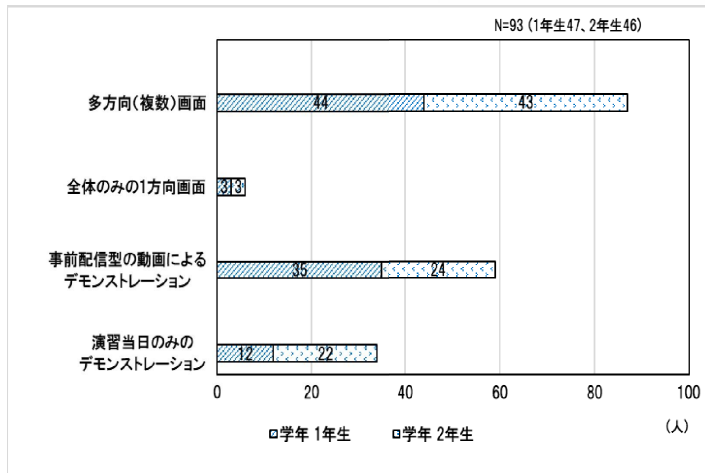


図6 動画画面及びデモンストレーションの種別

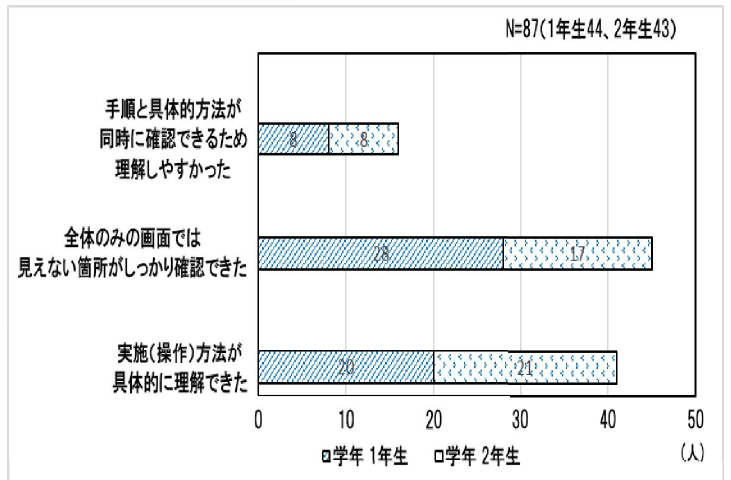


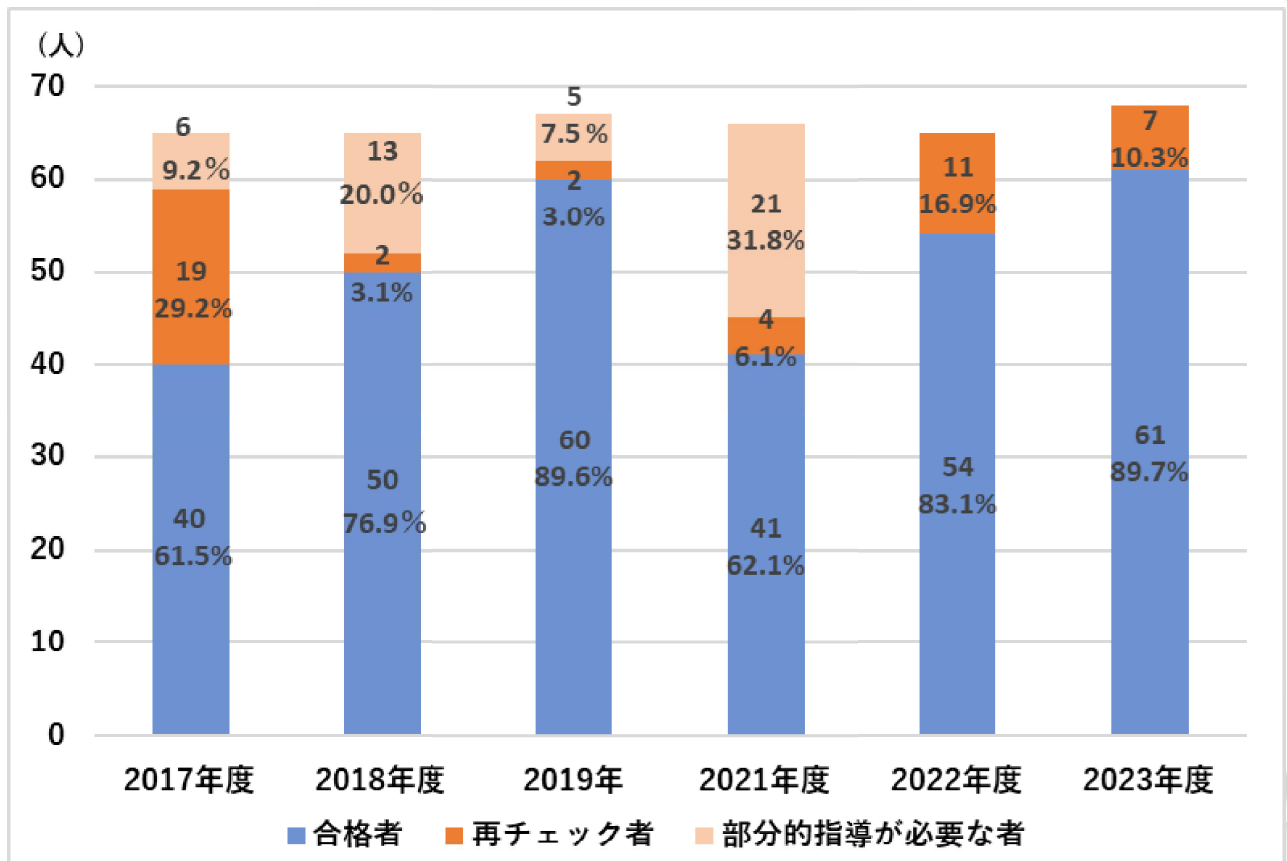
図7 多方向画面が良かった理由

表3 授業の取り組み姿勢と動画教材が役に立った度合との関係

	1年		2年	
	授業への取り組み姿勢	動画教材が役に立った度合	動画教材が役に立った度合	授業への取り組み姿勢
授業への取り組み姿勢	相関係数	1.000	.412**	.532**
	有意確率(両側)		0.004	0.000
	度数	47	47	46
動画教材が役に立った度合	相関係数	.412**	1.000	.532**
	有意確率(両側)	0.004		0.000
	度数	47	47	46

** 相関係数は1%水準で有意(両側)

図8 生活行動援助技術論 実技チェック結果の推移



11

結果の考察

- 回答者の8割以上の学生が本動画教材を役に立ったと回答しており、学生の学習効果につながったのではないかと考えられる。
- 授業への取り組み姿勢が高い学生ほど、本動画教材に対して役に立ったと考えており、学生のモチベーションによって授業教材の効果に影響することが明確になった。
- 動画画面については、回答者の9割以上の学生が多方向同時型（複数）をよかったと回答し、また、その理由として「全体のみ画面では見えない箇所がしっかり確認できた」と答えた学生が最も多く、実施方法の具体的理解につながり、デモンストレーションのみの教授方法の不完全さを補っていることが明らかとなった。
- 「自分の予定に合わせて学習ができる」という回答から、本動画教材を活用した反転授業は学生自身が主体的に学習管理できる方法であり、学習に向かう姿勢や態度を育成し、主体的学習能力の素地を身に着けることにつながるのではないかと考えられる。

12

結論

基礎看護学の授業における多方向同時型デモンストレーション動画教材を活用した反転授業を受けた学生の学習効果が示唆された。

謝辞

本調査にご協力いただいた学生の皆さんに深く感謝致します。
また、動画作成にあたりご尽力くださった本学メディア・教材課の八木利樹氏と水谷彰吾氏に心より深く感謝申し上げます。



ご清聴ありがとうございました